

アセビ(馬酔木) ツツジ科アセビ属常緑性の低木

ろくろしの森、周辺にアセビが樹勢しています。野生動物の隠れ場所になっています
安全な野外活動のために情報提供します。

有毒植物…葉に限らず全体に有毒成分が含有される。ニホンシカが忌避する植物。

年間季節を通して山に目立つ緑があります。それはおそらくはアセビです。大きくなっても3mほどにしかならない低木です。

3月終わり頃から白い花を咲かせ始めています。近づいてみると小さな花がたくさん集まっていて、一個一個の花はスズランのような形をしています。

アセビですが、漢字で書くと馬酔木です。しかしアセビは日本固有種、日本にしか生育しない木です。ですから日本で考えられた漢字表記であることになります。昔の日本の人が、馬がよろよろと酔っているような状態になっているのを見て、組み合わせたのかもかもしれません。

毒は植物体全体に含まれています。樹皮、根皮には多く含まれ、果実、葉、花にも含まれます。材部にも多くはないものの含まれます。動物たちは食べないように避けているようですが、間違えて飼料の中に入れてしまうと食べるらしく、中毒してしまい、量が多いと死んでしまいます。

アセビは、有毒成分を含んでいますが、人間は逆にそれを利用もしてきました。葉や茎を煎じて毒成分を抽出し、農作物の害虫駆除に使ったそうです。また昔のくみ取り式のトイレでは、ウジ虫を殺すのに使われました。

季語…春 花ことば…献身・清純な心・危険

万葉集より 池水に 影さえ見えて 咲きにおう 馬酔木の花を 袖に扱き入れな^こ

アセビを使って、工作、手に触れる、口に入れる、包丁で来・葉を切る・花入れ行為はしない事。
触れた場合は水で洗うこと。

特に注意・・・工作＝立ちかまど・食卓 にアセビの枝は使わない



ろくろしの野人

ろくろし整備・・・アセビを伐採して見通しが良くなるようにしていきます。

間違えやすい有毒植物 注意・ろくろしの森にも自生しています

1 有毒植物の誤食

植物の新芽、若葉や根、実など一部分をみただけでは、有毒植物と食用植物とを見分けることが難しい場合があります。野生の山菜などを採って食べる際は、その特徴や見分け方を正確に覚えておく必要があります。

スイセン スイセンを食用ニラを誤食する事故が後を絶ちません。

自生地：庭に栽培されたり、野生化して日当たりの良い所に自生します。

誤植部位：葉、鱗茎など。ノビルの鱗茎と間違えたり、**葉をニラと間違える**ことがあります。

症状：おう吐、胃腸炎、下痢、頭痛など。

毒成分：全草が有毒



スイセンの花



スイセンの花



食用 ニラの葉



スイセンの葉 **毒**です

チョウセンアサガオ

自生地：草地、空き地などに自生したり、庭などで栽培されています。

誤植部位：葉、根、種子。根をゴボウと間違える事例が多くあります。つぼみをオクラと、また、種子をゴマと間違えて食べた事例もあります。

症状：おう吐、瞳孔散大、呼吸の乱れ

けいれん、呼吸困難など

毒成分：全草が有毒



チョウセンアサガオ



チョウセンアサガオの実



上：チョウセンアサガオの
つぼみ（毒）と下：オクラ（食用）

ハシリドコロ（ナス科） 走野老

高さ 30 センチメートルから 60 センチメートル程度の多年草で、葉は長円形で先がとがっています。春、紅紫色の鐘の形の花が下向きに咲きます。果実は球形で、熟すと種子が散ります。誤って食べると、幻覚などを起こし、苦しんで走り回ることからこの名前が付けられました。

自生地：山間の湿地、谷間、薄暗い林内など

誤食部位：葉、根など。新芽をフキノトウやオオバギボウシなどの山菜と間違えることがあります

症状：おう吐、下痢、血便、瞳孔散大、目まい、幻覚など。

毒成分：全草が有毒



シリドコロ



ハシリドコロの若芽（毒）

フキノトウ（食）と間違え

シキミ（モクレン科） 地域によってはシキビとも言う

常緑の小高木で、葉は厚くつやがあり、春に淡黄白色の花を咲かせます。秋から冬にかけて星型の実をつけます。シキミの名前は「悪しき実」からついたと言われています。

シキミには、有毒成分のアニサチンが含まれており、実には有毒成分が特に多い。誤って食べた場合、通常1～6時間の潜伏期間の後に嘔吐、下痢、意識障害、けいれん等を引き起こす場合がある。

シキミの食中毒事例は稀であり、

常緑の小高木で、葉は厚くつやがあり、春に淡黄白色の花を咲かせます。秋から冬にかけて星型の実をつけます。シキミの名前は「悪しき実」からついたと言われています。

自生地：山中。墓地や寺院などに植えられていることが多い。

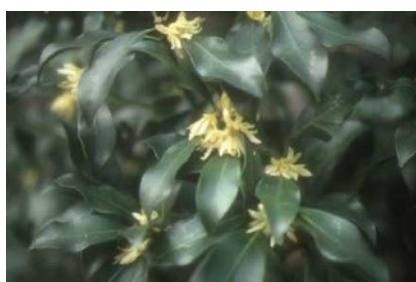
誤食部位：おう吐、下痢、めまい、けいれん、呼吸困難、血圧上昇など

毒成分：全草が有毒。特に実には毒成分が多い

シキミがお墓で使われる主な理由は以下の通りです

- ・ **お清め・浄化** シキミの強い香りは、古くから穢れを祓い、場を浄化する力があると信じられてきました。また、悪霊を遠ざける力があるとされ、故人や遺体を守る意味合いもあります。
- ・ **動物 虫よけ** シキミには毒性があり、その強い香りは動物や虫が嫌うため、かつて土葬が一般的だった時代には、遺体を荒らす動物や虫を寄せ付けないために墓地に供えられました。
- ・ **お香の代わり** シキミは独特の強い香りを放ち、お線香や抹香（お焼香で用いられる粉末状のお香）の原料としても利用されています。そのため、お香の代用品としてお墓に供えられます。
- ・ **水を清浄に保つ** シキミには、花をお供えする際に水を腐りにくくする働きがあり、花を長持ちさせる目的もあります。

シキミは一年を通して美しい緑色の葉を保つ常緑小高木で、「しきび」とも呼ばれることがあります。毒性があるため、取り扱いには注意が必要です。



毒シキミの種子

ヒガンバナ（ヒガンバナ科）彼岸花

日本全国の土手、墓地、道端など人家の近くに繁殖しています。秋の彼岸ごろ、主として赤色の花をさかせます、葉の時期と花が咲く時期が異なるのが特徴です。地下には鱗茎があります。

日本においては史前帰化植物に分類される。分布は日本全国である^[注釈 2]。秋の彼岸（9月）の頃に、花茎の先に強く反り返った鮮やかな赤い花を咲かせ、秋の終わりに葉が伸びて翌年の初夏に枯れるという、多年草としては特殊な性質を持っている。地下の鱗茎（球根）に強い毒性を有する有毒植物であるが、かつて救荒作物として鱗茎のデンプンを毒抜きして食べていた。

自生地：土手、墓地、道端など。

誤食部位：鱗茎、芽など。

症状：吐き気、おう吐、下痢、中枢神経の麻痺など。

毒成分：リコリンが全草に含まれます。特に鱗茎に多く含まれます。



冬を越した葉

トリカブト（キンボウゲ科） 学名オクトリカブト

高さが1メートル内外の多年草で、茎は3から5裂します。8月から11月にかけて青紫色のかぶと形の花を咲かせます。根は、三角錐の形をした塊根で、古くは狩猟の毒矢に利用されました。日本には数多くのトリカブト類が自生します。

自生地：平地から高山まで自生しています。山地の樹陰や高地の草原などに生える。山地の樹陰や高地の草原などに生える。しばしば群落を作る。

誤食部位：葉や茎など。食用のニリンソウ、モミジガサ、ゲンノショウコなどの若芽や若葉がトリカブト類と似ているため、間違ふことがあります

症状：口唇や舌のしびれに始まり、次第に手足のしびれ、嘔吐、腹痛、下痢、不整脈、血圧低下などをおこし、けいれん、呼吸不全（呼吸中枢麻痺）に至って死亡することもある。致死量はアコニチン2～6mg



トリカブト



芽生え期のトリカブト（矢印）とニリンソウ
（その周囲）

間違えやすい植物：早春から初夏にかけての山菜採集時期に、トリカブトの芽生え時期の葉と酷似している食用野草のニリンソウやモミジガサなどと間違えて誤食される中毒事故が多い。山菜狩りは有識者とともに行うべきである



ニリンソウ



ニリンソウの芽生え

1. ニリンソウ（食用） リンソウとトリカブト類は同じ環境に生えます。ニリンソウを摘む時は混入しないように注意が必要です。①春先、ニリンソウは白い花を付けますが、トリカブト類は秋に紫の花を付けます

ドクゼリ（セリ科）

大型の多年草で 80 センチメートルから 100 センチメートル位になります。若い葉や花は食用のセリに酷似しています。ドクゼリの特徴は、[地下茎](#)が太く緑色でタケノコ状の節があることです

自生地：小川、浅い池、沼、湿地などの水分の多いところに自生します。

誤食部位：葉、根。形態がセリに似ていることから、間違えることがあります。また、[根茎](#)をワサビと間違った例があります。

症状：おう吐、下痢、腹痛、けいれん、脈拍の増加、呼吸困難など。

毒成分：[全草](#)が有毒



ドクウツギ（ドクウツギ科）毒空木 生息地 ろくろしの森周辺未確認

ドクウツギは、日本では北海道から本州の近畿地方以北の山地、河川敷、原野、岩礫地、道端など、日当たりの良い場所に自生する

山地に自生する落葉低木で高さ 1.5 メートル位になります。花は 4 月から 5 月に咲き、果実は初め赤く、後に黒紫色に熟します。実は美しく、甘みもあるので食用と間違える事故が多発しています。

症状： **毒** 全木に即効性毒コリアミルチンを含む。中枢神経の興奮作用、嘔吐、痙攣、呼吸マヒ。果実は熟すると甘いが最も毒成分が多い。



ろくろしの野人